

キャンプの教材化とその価値の決め手の問題を巡って そのⅡ

～佐渡カヌー横断カヌーキャンプの場合～

○ 佐藤 朝代（げやの森学園自然塾）

キーワード： 宗教的哲学的背景をもつ野外教育活動、自然と感性と行動、生きる力

I はじめに

現代の子どもを取り巻く状況には、心身の健全な成育を阻む要因がいくつか考えられる。

- 1) 知識注入主義、経済効率主義などによるいじめなど（精神的ストレス）
- 2) 自己発見、人生観の確立など人生訓練のための実践、経験が少ない（自分は何をしたいのか、はっきりしない）
- 3) 教育の均一化、無機質化による自然で自由な発想の欠如（マークシート方式など）
- 4) 思索、表現、共感、評価、計画など感性や個性を基とする人間的学習の場が少ない（人づき合いが出来ない）
- 5) 教師間、生徒間、或いは二者相互の愛情や倫理観の欠如（教師や生徒の暴力など）

このような状況を払拭する一手段として野外活動が有効であると考え、17年間にわたり幼児及び、小、中学生に実践してきた。このたびそれ等の活動がより家庭や地域に根づき普及することを目的に、一般を対象とする自然塾なるものをつくり実践している。今回は自然塾の活動の中から佐渡海峡横断カヌーキャンプをとり上げ、報告することとする。

II 方法

先回の佐渡カヌーキャンプ後のアンケート（聞きとり調査）を分析し、その後のキャンプでの子どもたちの様子を観察し考察した。

1) 佐渡カヌーキャンプの概要

目的：自然と感性と行動の一致を体験することにより、それを生きる力とする。

課題：小学生から大人までが参加する3泊4日の生活の中で、

- ①与えられた時間の漕ぎ手として役割を果たすこと。
- ②海で潜ったり泳いだりして遊ぶこと。
- ③共同の生活で良い人間関係をつくること。
- ④これらの課題を果たしながら、自然の美しさや厳しさを感じとることとする

2) アンケートの内容

以下10項目にわたる質問について、一人ひとり電話で質問し回答を得た。回答者は会員の年長者（子どものみ）から順に6人をピックアップした。

〔参考資料-I〕

- ①カヌーの魅力って何か？
- ②佐渡のカヌーは厳しかったか？
- ③漕いでいるとき、どんなことを思ったか？
- ④漕ぎ終わったとき、どうだったか？

- ⑤ どうして苦しいはずのカヌーが、後で楽しいと思えるようになったか？
- ⑥ 自分と自然との関係をどう思うか？
- ⑦ 自分がカヌーなどをすることによって、どんな風が変わったか？
- ⑧ 将来はどんな風に、自然と関わっていききたいか？
- ⑨ どんなことを自然塾に期待するか？
- ⑩ 家庭ではカヌーの活動、又は自然塾の活動をどう思うか？

Ⅲ 結論と考察

1) アンケートの結果を見て・・・

質問1 に対しては、概ね自分の身体の延長のごとく、思いどおり操作できる所に魅力を感じている。
自分の力でやっていること（動力を他に頼らない）、水面が近いことなどもその理由になっている。

質問4、5 は、満足感、達成感、充実感があると年長者はおしなべて、答えている。
それに対し、年少者は、他の遊び（魚とりや海でもぐったこと）が楽しかったとか、片付けの時、大人からたしなめられたり、叱咤激励されたことが却って、思い出に残っていたりすることがわかった。

質問6 は、意識していないが、回数を経て自然が心地よいと思われていくようになるということのようだ。
自然が神秘だったり、危険だったりする所に魅力を感じているということであろうか？

質問7 は、自分で気づかされたこと、或いは学んだことになっていると考えられる。
それは、普段の自分に対しての反省点とも受け取れるし、これから、こうすべきだという認識にも繋がるものであると考えられる。

質問8 は、これからの自然塾の活動を示唆するものと考えてよいだろう。
空き地に花を植えたり、入間川の源流に広葉樹を植えたりする社会貢献もよいだろう。
又、プログラムは、今までの繰り返しを、スタッフは考えてしまいがちだがメンバーがあまり変わらない状態では、次々と新しい体験の場、発見の場を与えていかないといけないということがわかる。
子供たちは常に、新しい困難なことにチャレンジし、学びたいという好奇心を持っている。
チャレンジしたり、アタックすることが大切と伝えたいのなら、自然塾自体も常に新しくなければならぬということであろう。
これは、スタッフにとって少々厳しいことである。

質問9 では、子供たちにもっと自由で主体性のある環境をつくってやろうと、考えてはいても、つい今までの学校教育の延長として、
‘〇〇をしなさい’ という命令をし、管理していた自分に気づかされ、大いに反省することになった。
子供たちを信頼し、任せられるものは任せなければならない。
危険を伴う活動については、選択の余地のないものもあろうが、せめて、AかBか、自分で選んで行動することが出来れば、子供の主体性を満足させられたのではないかと思う。

質問10 の家庭の考え方であるが、殆どが人間形成に良いと考え自然塾の趣旨に賛同し、参加させていると考えられる。
であるなら、そういう視点からキャンプの結果を家庭に報告しなければならぬと思う。

又、次々重ねて活動する意義をきちんと伝えて行かなければならない。子供だけでなく、支援する家庭でも自然に対する考え方を等しくし、一緒に活動できるものには、積極的に参加協力してもらうことが重要である、と思う。

以上、昨年のカヌーキャンプに参加した年長者から6名をピックアップし、アンケート調査をしたが、6名中4名は今年も参加した。しかし、年長者2名(中学生)は不参加である。そのうちの1名は、無線の免許をとり外国のキャンプに参加することになっている。又、他の1名は、外国の子どもの交流キャンプに参加することになっている。

2) キャンプを効果的に終息させるための条件

- ・良い結果にならなかった時の、指導者のフォローが必要である。
- ・安定した家庭生活、家族の援助、協力の中で、危険で厳しいキャンプははじめて有効である。

3) 特に、カヌーキャンプだから効果があった点としては、

- ① 自分の力で漕ぐ(自分の手によって、一定の課題が成し遂げられる)
- ② 技術のレベルによって、様々な楽しみ方が出来る。
- ③ 要求に応じ、広く深く様々な展開ができ、知的好奇心を満足させることが出来る
- ④ 原始的な道具なので、自然と人間を直接結び付けてくれる。

以上のようなことがあげられる。

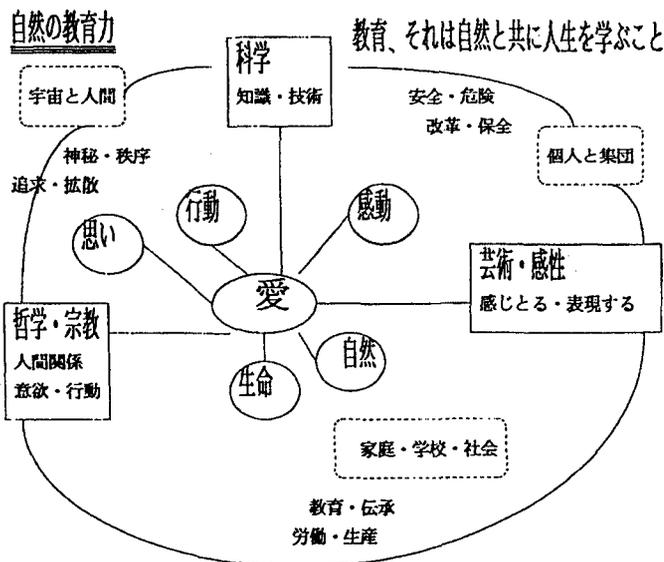
IV 今回のカヌーキャンプを通して考えられる、キャンプの教材としての意味

- ① 自然の中で心身が解放される
- ② 生きることの原点の体験
- ③ 生活に根づいた主体的学習
- ④ 社会の形成、相互理解と信頼
- ⑤ 自然環境の保全の必要性を認識する

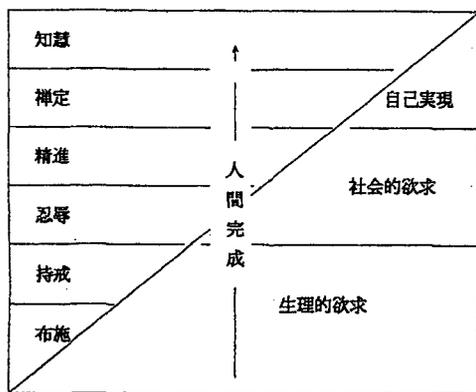
V まとめ

何のためにキャンプをやるのか、どんなキャンプにしなければならないのかと、いつも疑問を投げかけながら、活動してきた。けやの森のキャンプの場合、それは常に心の問題を視点に据えて行ってきたと言える。つまり、キャンプとは人が人として自然や事物を肌で感じとり、考え、伝えていくところであり、心を開放し能力を呼び覚まし、人間の本来あるべき自然な姿に戻していくところであろうかと考える。子どもも大人も自然の中で夢中になって活動すると、各々が清々しい気持ちになり、自他のこと、将来のことがはっきりと見えてくるようになる。何が大切で尊いのかという一定の価値基準ができてくる。これが、けやの森のキャンプの特徴であり、18年間続いてきた理由であろうかと考える。これからも益々このようなキャンプを実践し、参加者の心の平安に寄与したいと思う。

以上、佐渡海峡横断カヌーキャンプを通して、キャンプの教材としての価値を見いだす視点をいくつか挙げる事が出来た。これも偏に指導者としてご協力いただいた、駿河台大学、土方幹夫教授によるところが大きい。感謝申し上げます。またビデオ撮影、編集に携わられた宮田氏にも御礼申し上げます。



人間の基本的欲求と六波羅密との関係



人としての完成に伴って自己の欲求が充足される

けやの森を支える宗教的基盤

生きいきと、各々に生きいきと

生命の尊重
生きる力

<p>① <small>ふせ じし</small> 布施奉仕 家や学校、友人の仕事を 率先して手伝う。</p>	<p>他人に親切にすることは、まわりまわって自分に 戻ってくる。そうした利便を抜きにしても、どんな 時にも隠れた親切が人間の社会を明るくすることを 知らせよう。</p>
<p>② <small>じせい じご</small> 持戒和合 生命あるものを慈しみ 傷つけない。</p>	<p>約束を守ることは、社会生活の第一歩であり、 それをもとにして集団の秩序が保たれる。社会生活 の第一歩である園生活を楽しいものにしよう。</p>
<p>③ <small>じん じく じご</small> 忍辱持久 成すべきことに向かって、 苦しくとも努力する。</p>	<p>仏様の教えを知り、それに少しでも近づくように 努力することによって、毎日の生活を充実させる 事が出来る。目標は遠くても、じっくり取り組む ようにしよう。</p>
<p>④ <small>じせい じん じご</small> 精進努力 清々しく精魂をかたむけ 前進する。</p>	<p>途中でくじけては、どんな良いことでも実らない。 すべてのことを終わりまで粘り強くやり遂げる事は 幼児のうちから習慣としてしまうことが大切である</p>
<p>⑤ <small>じん じご せい じご</small> 静定静寂 静かに、一日の行動を 振り返り反省する。</p>	<p>思いつきをそのまま実行すると、大抵失敗する。 行動に移す前にじっくり考え、世の中の動きに 巻き込まれず、しっかりと地に足の着いた生活を しよう。</p>
<p>⑥ <small>きん じご せい</small> 矢口願希望 何が大切で尊いことかを 見極める</p>	<p>いつも希望を胸の中に持ち、明るい明日の生活を 目指して、よく学び、よく働き、よく遊び、 すべての人のために楽しい社会を生み出すように 努めよう。</p>